

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (北海道)	◎	百貨店（営業販促担当）	お客様の様子	・引き続きイベントの集客が上向いている。11月以降、衣料品が前年を上回り始めており、前年不調だったコート類などの羽織物も動いている。
	◎	家電量販店（経営者）	販売量の動き	・在宅時間が長くなったことで、修理、リフォームなどのいわゆる家ナカ需要が旺盛である。また、気温が低下していることで暖房器具の需要も旺盛である。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大が収まると人出が徐々に増え、来客数も増加傾向となる。12月は新規感染者数が低い水準で推移していることから、来街者が増えており、各店の来客数も増加している。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いていることで少しずつ客足が戻ってきている。ただ、前々年と比べるとまだ80%程度の水準である。年末の忘年会需要も回復傾向にあり、週末は予約が入らないほどに回復しつつある。ただ、一次会で使われるような店は比較的良いが、二次会、三次会という流れはみられない。早々に帰宅する様子がみられ、コロナ禍の習慣と感染への恐怖を植え付けられた客が以前の感覚を取り戻すには時間が掛かりそうである。
	○	商店街（代表者）	販売量の動き	・りんごの輸出の最盛期であることから、景気はやや良くなっている。
	○	一般小売店〔酒〕（経営者）	単価の動き	・客先の飲食店の様子をみると、年末の忘年会需要はまだ戻っていないものの、個人客が思い切った金の使い方をしており、客単価がかなり上がってきている。
	○	百貨店（売場主任）	販売量の動き	・11月から新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきたことで、12月に入りボーナス商戦、クリスマス商戦で売上が伸びると期待していたが、中旬の降雪の影響もあり、見込みほどの伸びはみられなかった。ただ、インバウンドを除いた日本人客による売上について、前年、前々年を上回る売上がみられるのは明るい兆しである。
	○	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルス新変異株への脅威はあるものの、新規感染者数が小康状態にあるため、来街者が増加傾向にある。それにともなって来客数、買上客数も増加傾向にある。
	○	百貨店（マネージャー）	来客数の動き	・来客数の動きをみると、9月が前年比91%、10月が前年比95%、11月が前年比95%、12月が24日現在で91%となっている。3か月前と比べると客の滞留時間が長くなっており、買上率も上がってきている。売上也来客数に比例して回復しているが、まだ前年並みの水準には届いていない。
	○	スーパー（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルス新変異株が出てきたが、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いていることもあり、広域からの来客が増えている。
	○	スーパー（店長）	来客数の動き	・バーゲンセール、クリスマス需要、年末需要といった大きいセールスが続くなか、衣料品の売上が前年と比べて顕著に伸びている。
	○	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数が減っていることがプラスである。また、北海道が旅行者の消費喚起を目的に配布しているクーポンの利用が増えていることもプラスである。
	○	衣料品専門店（店長）	単価の動き	・来客数は低迷したままだが、前年と異なり、成人式、フレッシュヤーズなどのイベントに向けた商材の販売量が回復しており、客単価が上昇している。
	○	家電量販店（店員）	来客数の動き	・12月の来客数は前年とほぼ変わらない数字を保っている。ただ、感染症対策のためか、1日の後半になると客足がすぐに引いてしまう。
	○	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・メーカーの生産体制が以前よりも回復傾向にあることで、登録台数が徐々に回復してきている。特に新型車の受注が好調である。

○	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・海外の新型コロナウイルスの影響で遅れていた新車の生産体制が回復しつつある。それにとまって客からの受注も増えてきた。
○	自動車備品販売店 (店長)	それ以外	・新型コロナウイルスの感染状況が消費や景気を大きく左右するなか、当地の感染状況が落ち着いていることに加えて、クリスマスや年末といった行事が重なったことで、集客につながっている店舗が多くみられる。
○	その他専門店 [造花] (店長)	お客様の様子	・感染状況が落ち着いてきたことで、若干ではあるが来客数が増加傾向にある。客もコロナ後を見据えた動きとなってきており、緊急事態宣言前の状況まで戻りつつある。
○	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・感染が収まっていることもあり、少しずつではあるが、客が戻りつつある。
○	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いていることで週末の来客数が増加している。平日についても僅かではあるが上向き傾向となっている。
○	観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・行政による需要喚起策により予約が堅調に推移している。コンサートイベントに関連した宿泊需要も回復の兆しがみられる。
○	旅行代理店 (従業員)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いていることで航空機利用者が増加している。クリスマスから年末に掛けての利用状況も良く、帰省などの生活需要やスノーボードなどの冬季観光需要も回復してきている。
○	旅行代理店 (従業員)	来客数の動き	・行政による旅行需要喚起策の効果もあり、個人客を中心に客が動き始めている。
○	タクシー運転手	来客数の動き	・前年12月はコロナ禍で人の移動が制限されたことで年末の繁忙期にもかかわらずタクシーの利用が大きく減った。今年は少しずつ人出が増えていることでタクシーの利用が大幅に増えており、売上は前年から約30%の増加となった。また、タクシー1台当たりの売上も前々年比マイナス5%となるなど、ほぼ新型コロナウイルス発生前の水準まで回復している。ただ、乗務員不足で車両の稼働が減っているため、全体売上は前々年を30%下回るなど、まだまだ前々年の水準に及ばない状況にある。
○	タクシー運転手	来客数の動き	・日中のオーダー件数がやや増加している。夜間の飲食店からのオーダーもやや増加している。
○	タクシー運転手	販売量の動き	・利用客数が前々年の75%程度まで回復している。新型コロナウイルスへの警戒心はまだ強いものの、少しずつウィズコロナを意識した経済活動が行われるようになってきている。
○	タクシー運転手	お客様の様子	・年末を迎えて前年よりも客の外出が増えている。タクシーの稼働状況も前年から20%の増加となっている。ただ、新型コロナウイルス新変異株の市中感染なども影響して、まだまだ予断を許さない状況にある。前々年並みの水準に回復するにはまだ時間が掛かる。
○	観光名所 (従業員)	来客数の動き	・3か月前は緊急事態宣言の影響でやむなく臨時休業したが、現在は営業できていることで景気は良くなっている。12月の前年比は26日現在で164.25%となっており、新型コロナウイルス発生前の水準にははるかに及ばないが、希望がみえてきた状況にある。
○	美容室 (経営者)	販売量の動き	・12月は新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いていたため、売上は新型コロナウイルス発生前の前々年の90%まで回復している。
○	美容室 (経営者)	販売量の動き	・3か月前と比べて売上は約10%伸びている。12月という時期的な影響もあるが、前年と比較しても多少良くなっている。
○	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染が収まっていることで人出がかなり増えており、飲食、観光関係も徐々に盛り上がってきている。住宅の着工数も順調に推移しており、景気はやや良くなっている。
□	商店街 (代表者)	お客様の様子	・現在も景気は変わらないと話す客が多い。コロナ禍の状況はもうしばらく続く。

□	商店街（代表者）	来客数の動き	・12月に入り年末大売出しなどの季節需要も生じているが、そうした季節需要を除けば、昼間の来街者数は目立って増加していない。ただし、夜型飲食店については悪い状況ではあるが、金曜の午後8時頃に小規模ながらも忘年会帰りともみられる酔客が毎週のように確認できたなど、改善の兆しが幾分うかがえる。
□	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・北海道の新型コロナウイルス新規感染者数について1けた台が続いていることもあり、雪で天候が悪いなかでも近郊からの客が思いのほか多く来ている。12月の売上は前年比222.2%、前々年比59.4%となっている。
□	一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除されてから、少しずつだが観光客の動きが良くなってきている。延期していた修学旅行が戻ってきたり、年配客の小団体旅行が増えたりと、緊急事態宣言期間中にはなかった客の動きがみられることは明るい材料である。
□	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・客単価が上昇している一方で、来客数が減少していることから、売上は微減となっており、景気は良くも悪くもない状況にある。今後については新型コロナウイルス新変異株次第の面がある。
□	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・店舗の売上をみると、飲食店向けの取引は前年がかなり悪かったことの反動もあり、前年と比べて回復基調にある。その一方で、来客数は余り回復していない。
□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売量の動きをみると、冬という北海道ならではの季節要因もあり、それほど変化がみられない。安定しているが、特別良いわけでもない。ただ、1～3月になれば決算期に向けて景気が上向いてくると見込んでいる。
□	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・石油製品価格が高値で推移していることで、燃料の節約志向が強まっている。
□	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・月末の売上はかなり回復したが、団体の忘年会や平日の予約客が少なかったこともあり、2年前の6割ほどであった。クリスマスディナーは直前になって全席が埋まったが、例年よりも席数を制限していたうえ、人手不足の影響で料理の手を掛けすぎないようにしたことから単価設定が低くなり、今一つであった。最近になって、一般飲食店では求人が増えてきたようだが、高級店ではまだ客の動きが少ないことから、増員しづらい状況にある。
□	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・3か月前は緊急事態宣言の期間中であったため、単純比較はできないが、全国的な観光需要喚起策が再開されていないことから、今も低迷が続いている。
□	旅行代理店（従業員）	それ以外	・新型コロナウイルスの影響が残っており、まだ上向きになっていない。客の消費控えも続いている。
□	タクシー運転手	販売量の動き	・年末の売上は前々年の8割ほどに回復した。週末については前々並みの水準まで回復したが、平日については伸びがみられない。また、ビジネス関係の会合、会食が全くないことから、回復に力強さを感じられない。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・北海道もようやく新型コロナウイルスの感染状況が落ち着きを見せてきているが、まだまだ先が見えない状況にある。また、新型コロナウイルス新変異株が出てきたことで、今後の感染状況によっては以前のような状況に戻ることも懸念される。
□	美容室（経営者）	それ以外	・他業種の人と話す機会があったが、前年と比べれば景気は良いが、今後について不安に思っている人が多かった。早く新型コロナウイルスが収束してほしい。
□	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームに来る客の多くは購入意欲が高く、大変熱心に説明を聞いている。ただ、分譲マンションの価格と客の予算が合わないことも多く、調整に時間を要することが多い。

	▲	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスに関する緊急事態宣言が解除されて以降、とりわけ11月以降は週末の土日を中心に客足が百貨店や外食に向かっており、食品スーパーへの来店が減ってきている。
	▲	スーパー（企画担当）	競争相手の様子	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、人流が多くなっていること、年末年始に向けて前年よりも帰省などが増加していること、商圈に競合店が出店し競争が激化していることなどから、景気は下向きとなっている。
	▲	スーパー（役員）	お客様の様子	・食用油、小麦の値上がりにより、パン、麺類など、幅広い商材が値上がりしている。特売価格も上がっていることから、客も商材が高くなったと感じているようである。
	▲	スーパー（従業員）	お客様の様子	・コロナ禍による影響に加えて、原油価格が高止まりしていることもあり、食料品が値上がり傾向にある。個人消費の落ち込みにもなう売上の減少、経費の増加がみられる。
	▲	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・売上が今一つである。公共工事がやや落ち着き、利用客数が減っている部分も影響している。観光客の動きが今後の新型コロナウイルスの感染状況によって変化しそうなことも懸念材料である。
	▲	その他専門店 〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・来客数は20%の減少であった。特に常連客の落ち込みが目立っている。客の高齢化、悪天候の影響、新型コロナウイルスへの不安といったことも影響しているが、同様の要因は前年もみられたことであり、むしろ影響は今年以上に大きかったはずである。
	▲	通信会社（企画担当）	お客様の様子	・通信端末の契約獲得のために大型スーパーや大型商業施設を中心に出張販売を増やしているが、特に都市部では競合他社の出店数やスタッフ数が多い上に値引き額も大きく、競合他社への流出がますます拡大してしまっている。また、法律に違反しない範囲での価格競争も厳しくなっており、消耗の激しい状況となっている。
	▲	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・今年は特に天候の悪化による欠航が多いこともあり、輸送量が減少している。
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・例年と比べると景気はとて悪い。もう少し時間を掛けないと元に戻らないとみられるため、これから少しずつ良くなることを期待している。
企業 動向 関連	◎	—	—	—
(北海道)	○	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス新変異株の感染拡大によって、現在の状況が変わることを懸念している。
	○	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・これまで比較的天候に恵まれたことから、各現場の工期短縮による利益の上振れが見込まれる。また、ここに来て見積り参加の引き合いが増え、次年度繰越しの民間建築案件を立て続けに受注できたこともプラスである。
	○	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・年末ということもあり、雑貨の動きが例年に近い物量に戻っている。配合飼料用の原料も順調に動いており、バター、脱脂粉乳の倉庫保管も引き続き積み上がっている。ただし、古紙不足の影響で紙パルプ関連が伸び悩んでいるほか、本州向けの生乳も低調に推移している。
	○	金融業（従業員）	取引先の様子	・コロナ禍でこれまで不振だったサービス消費や百貨店販売が復調してきた。一方、巣籠り消費は頭打ち感がみられる。個人消費はエネルギー価格の上昇が重荷となっているが、全体的には持ち直している。こうした個人消費の持ち直しを背景に道内景気は3か月前と比べてやや良くなっている。

	○	司法書士	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス新変異株の影響はまだ少なく、年末の駆け込み需要もあり、少しずつ仕事の受注量が増えている。取引先の建築業者も小型建売住宅を手掛ける業者は堅調であり、販売量も伸びている。それにともなって当事務所の受注量も伸びている。
	○	その他サービス業 [建設機械レンタル] (総務担当)	受注量や販売量の動き	・12月前半は前年割れだったものの、後半に入り5%程度の伸びがみられている。観光関連事業の再開案件が増えていること、ホテルの予約状況も盛況なことから、今後の景気はますます上向くことになる。
	□	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・3か月前と比べて販売量がやや増えているが、季節要因によるものである。
	□	通信業 (営業担当)	受注量や販売量の動き	・3か月前との比較では大きく変わらないが、リモート対応、職場分散、在宅勤務といったコロナ禍を意識した新規案件が明らかに増えている。
	□	司法書士	取引先の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少しているが、活発な経済活動を行うまでには回復していない。長い自粛期間に慣れたことで、活発な行動を行うことが良くないという考えが定着しているためとみられる。また、政権が交代したものの、いまだに新型コロナウイルス対策が最優先の状況であるため、景気回復にはまだまだ時間が掛かるとみられる。
	□	その他非製造業 [鋼材卸売] (従業員)	受注量や販売量の動き	・スポット案件などの受注販売で売上は増加傾向にあるが、引き続きベース商材の動きが悪い。景気が良くなっているという話を周りからも聞かないため、景気は変わらない。
	▲	金属製品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・ウッドショック、メタルショック、半導体不足などの影響でボイラー、給湯器、便器、食洗器、ソーラーパネルなどの入荷が遅れており、工事が中断している。1月以降は入荷見通しも立っていない状況である。
	▲	建設業 (従業員)	受注価格や販売価格の動き	・仕事量が少ない一方で、技術者不足の影響で工事契約金額を高め設定せざるを得ないため、業務確定に至らない案件が多い。受注量が減少傾向にある。
	×	—	—	—
雇用関連	◎	—	—	—
(北海道)	○	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・求人への問合せが増えている。前年は企業の求人意欲が低迷していたが、今年は企業訪問した際に人材紹介の依頼を受けることも増えており、コロナ禍以降の事業拡大意欲が感じられる。
	○	求人情報誌製作会社 (編集者)	求人数の動き	・緊急事態宣言が解除されてから、徐々に経済活動が活発になっている。キャリアケースを引く観光客の姿もちらほらみられるようになってきている。ただし、外食や小売業では新型コロナウイルス発生前の水準まで回復しているわけではない。また、原油価格高止まりの影響が、今後、経済活動や個人消費に及んでくることも懸念される。
	○	求人情報誌製作会社 (編集者)	周辺企業の様子	・クリスマス、忘年会、帰省、観光にかかわる業界から、客が戻りつつあるとの声を多数聞く。大型スーパー、有名飲食チェーン店の開店もあり、市民の消費マインドが向上していることがうかがえる。
	○	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・当地における11月の有効求人倍率は0.91倍であり、3か月前と比べて0.08ポイントの上昇となっている。
	○	学校 [大学] (就職担当)	求人数の動き	・新型コロナウイルス新変異株の感染拡大が懸念されるが、次年度に向けての大手企業、中堅企業の採用意欲は上向きを維持している。年明けに新型コロナウイルスの爆発的な感染が起こらない限り、3月からの新卒採用活動も緩やかに上向くことになる。
	□	求人情報誌製作会社 (編集者)	周辺企業の様子	・基幹産業である農業及び建設土木関係の求人意欲は高い。一方、人々の新型コロナウイルス新変異株への警戒感が高まっていることもあり、商店街や中心繁華街の小売店、飲食店の求人が芳しくない。
	□	職業安定所 (職員)	求職者数の動き	・有効求職申込件数の動きをみると、新規求職申込が若干増えているものの、有効求職者数が高止まりしている状況が続いており、失業の長期化が一定程度みられる。そのため、景気がなかなか上向いてこない。

□	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求職申込件数が減少していることから、求職者が新型コロナウイルスの感染状況をみながら、求職活動の開始時期を見計らっていることがうかがえる。
▲	*	*	*
×	—	—	—